

まちづくり まちの成り立ち 調べる 活かす

名古屋都市センター アドバイザー
杉山正大

はじめに

- ・ 温故知新（故（ふる）きを温（たず）ねて新しきを知る）：論語
「昔の物事を研究し吟味して、そこから新しい知識や見解を得る（広辞苑）」
- ・ ヴァイツゼッカーの演説：荒野の40年
「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」
- ・ E. H. カーク：歴史とは何か
「現在は過去の光に照らされて初めて十分に理解できるようになる」

1 最初はやっぱリネットで検索かな

[検索語の選択]

検索結果が思わしくないときは、主要なキーワードのほかに派生的な用語を加えてみる。

[ウィキペディアもすてたものじゃない]

ウィキペディアを全面的に信ずるわけにはいかないでしょうが、概括的な全体像を把握しておくには便利だと思います。

年表的な事実経過はかなり信頼性があると思います。

それから記載事項の根拠を示す出典も参照できるし、それが知識の拡大に役立ちます。

[生成 AI もどれほどのもの？]

Chat GPT や GEMINI は、うまく使いこなせば重宝でしょうが、万能ではありません。

2 便利なサイト

[なごやコレクション]

https://e-library2.gprime.jp/lib_city_nagoya/da/top

たとえば「郷土検索データベース」に「清須越」と入力すると、次のように14件の資料が表示されます。[https://e-](https://e-library2.gprime.jp/lib_city_nagoya/da/result_sd?category=%E9%83%B7%E5%9C%9F%E6%A4%9C%E7%B4%A2%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%99%E3%83%BC%E3%82%B9&cond%5Bitem1%5D=%E6%B8%85%E9%A0%88%E8%B6%8A)

[library2.gprime.jp/lib_city_nagoya/da/result_sd?category=%E9%83%B7%E5%9C%9F%E6%A4%9C%E7%B4%A2%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%99%E3%83%BC%E3%82%B9&cond%5Bitem1%5D=%E6%B8%85%E9%A0%88%E8%B6%8A](https://e-library2.gprime.jp/lib_city_nagoya/da/result_sd?category=%E9%83%B7%E5%9C%9F%E6%A4%9C%E7%B4%A2%E3%83%87%E3%83%BC%E3%82%BF%E3%83%99%E3%83%BC%E3%82%B9&cond%5Bitem1%5D=%E6%B8%85%E9%A0%88%E8%B6%8A)

このうち、ごく一般的な内容として例を挙げると、8番目の「清須越 大都市名古屋の原点」が挙げられます。

[Network2010]

<https://network2010.org/>

上欄の中から、「名古屋」や「アーカイブス」を選んでもいいし、「総合索引」をクリックしてその中から興味のあるコンテンツを選択してもいいでしょう。

後者の場合は、次のようになるので、さらにその中から選んでいけばいいです。

<https://network2010.org/article/2107>

[名古屋歴史ワンダーランド]

<https://nagoya-town.info/>

このサイトでは、地図や写真を用いて興味深いエピソードを紹介しています。

たとえば「さあ 街へ」をクリックすると、次の地図で選択できます。

https://nagoya-town.info/menu/menu_tizu/menu~tizu.html

この中から、たとえば「金山」さらに「金山駅」とクリックしていくと、

https://nagoya-town.info/menu/menu_tizu/atu~kanayama/atu~kanayama.html

<https://nagoya-town.info/miti/atu~kanayama~eki/atu~kanayama~eki.html>

3 地図を調べる

[今昔マップ on the web]

<https://ktgis.net/kjmapw/>

最初に「中京圏」を選択

https://ktgis.net/kjmapw/kjmapw.html?lat=35.172883&lng=136.889812&zoom=14&dataset=chukyo&age=0&screen=2&scr1tile=k_cj4&scr2tile=k_cj4&scr3tile=k_cj4&scr4tile=k_cj4&mapOpacity=10&overGSItile=no&altitudeOpacity=2

左の欄で必要事項を選択

[地理院地図]

<https://maps.gsi.go.jp/#14/35.173379/136.907575/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>

左上の「地図」アイコンをクリックすると、

<https://maps.gsi.go.jp/#14/35.173352/136.907587/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1&d=m>

地図または写真の種類やトピックを選択できます。

地図を移動、拡大、縮小して望むフレームにした上で、上欄の中から「印刷」を選ぶことができます。

また「共有」をクリックすれば、その中から画像として保存することもできます。利用は無償ですが、公開に当たっては条件を守る必要があります。

[オープンストリートマップ]

<https://www.openstreetmap.org/#map=14/35.1738/136.9021>

オープンストリートマップはだれでも自由に使用可能、編集可能な電子地図です。

オープンストリートマップを使用するには、本来のサイトから手繰っていくのが本筋でしょうが、たとえば次のようなサイトも参考になります。

<https://www.aeroasahi.co.jp/fun/column/27/>

[名古屋都市計画情報提供サービス]

<http://www.tokei-gis.city.nagoya.jp/>

名古屋都市計画情報提供サービスは、名古屋市が提供する各種地図を閲覧、印刷、保存することができます。

最初の都市計画情報が本来機能ですが、歴史的なことを調べるには、都市計画基本図情報と都市計画写真地図情報が役立ちます。

「都市計画基本図情報を見る」→「同意する」とクリックして現れる画面で、右の「地図から探す」の中の調べたい位置にポインタを合わせてクリックします。たとえば、栄付近をクリックすると次のようになります。

<http://www.tokei-gis.city.nagoya.jp/map.asp?pixx=252&pixy=194&ntp=7>

左の欄は地図作成のもととなった航空写真撮影時期を示しており、下へ行くほど過去にさかのぼります。

その欄のすぐ右のスライダーは縮尺の増減を調整できます。デフォルトでは1/10,000が表示されますが、最大で1/2,500まで表示されます。

右上の欄で、「印刷」、「地図保存」を選択して指示に従えば、印刷したり、画像として保存したりすることができます。

右上の欄で、「2画面」を選択すると、左右に2画面が表示されます。最初は両方も同一画面ですが、左下の二重矢印をクリックすると時点を選択して過去と現在、あるいは過去の2時点を比較することができます。

また、上の欄にある都市計画基本図情報をクリックして、その中にある都市計画写真地図情報を選択すると、同一時点、あるいは異なる時点の都市計画基本図と都市計画写真地図を比較することができます。

[マップあいち]

<https://maps.pref.aichi.jp/>

「すべてのマップ」を下へスクロールしていった、たとえば「愛知県文化財マップ 埋蔵文化財 記念物」→「同意する」とクリックします。

左上のスライダーで拡大します。

格子状のエリアが埋蔵文化財の範囲（区域）で、青丸が個別の埋蔵文化財です。それぞれのポイントをクリックすると、詳細情報が吹き出しで表示されます。

<https://profile.maps.pref.aichi.jp/lib/map.php?mid=20055>

[愛知県図書館絵図検索]

<https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/public/index.html>

ここには多種類の古地図を閲覧することができます。

利用については、愛知県図書館の承認手続きをする必要があるようです。

たとえば「名古屋御城下絵図」→「絵図を見る」を選べば閲覧できます。

https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/ezudata/jpeg_/542.html

4 文献を調べる

[J-Stage]

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

J-STAGE は、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する電子ジャーナルプラットフォームです。無料で登録できます。

検索窓にキーワードを入力することにより、該当論文が表示されます。

たとえば「碁盤割」と入力すると、89 件ヒットしますが、内容的には上位 4 件程度が有意義でしょう。

<https://www.jstage.jst.go.jp/result/global/-char/ja?globalSearchKey=%E7%A2%81%E7%9B%A4%E5%89%B2>

たとえば最初の「名古屋都心部・碁盤割地区における空間利用の推移に関する分析」をクリックすると概要が表示され、右上の「PDF をダウンロード」をクリックすれば全文がダウンロードされます。

余談ですが、2 番目と 3 番目は碁盤割の 1 辺の距離がどうであったかに関する有名な 2 説です。

[グーグル スカラー]

<https://scholar.google.co.jp/schhp?hl=ja>

[CiNii]

<https://cir.nii.ac.jp/>

[各学会のサイト]

まちづくりに関連する学会としては、次のようなものがあります。

日本都市計画学会：<https://www.cpij.or.jp/>

日本建築学会 : <https://www.aij.or.jp/>

土木学会 : <https://www.jsce.or.jp/>

日本造園学会 : <https://www.jila-zouen.org/>

日本地理学会 : <https://www.ajg.or.jp/>

各学会には、さらに分野別や地域別に細分化された分科会的な組織があることも多く、それぞれに発表論文集などもあります。

ただなかなか敷居が高く、アクセスすることがむつかしく感じることもあるかもしれません。とりあえずは、J-Stage の利用がおすすめです。

5 画像を調べる

[検索語+画像]

検索語に画像という用語を加えると、画像が多くヒットします。

たとえば、グーグルで「名古屋市市政資料館 画像」と打ち込んで検索すると、多数の画像がヒットします。

https://www.google.com/search?q=%E5%90%8D%E5%8F%A4%E5%B1%8B%E5%B8%82%E6%94%BF%E8%B3%87%E6%96%99%E9%A4%A8+%E7%94%BB%E5%83%8F&rlz=1C1TMBY_jaJP1015JP1015&oq=%E5%90%8D%E5%8F%A4%E5%B1%8B%E5%B8%82%E6%94%BF%E8%B3%87%E6%96%99%E9%A4%A8%E3%80%80%E7%94%BB%E5%83%8F&gs_lcrp=EgZjaHJvbWUyCAgAEEUYJxg50gEIMTc3NmowaJeoAgCwAgA&sourceid=chrome&ie=UTF-8

ただ、これらの画像の利用については、条件があつたり、場合によっては有償であつたりすることがありますから注意が必要です。

[国立国会図書館デジタルコレクション モージャー氏撮影写真資料]

(戦後日本各地の風景カラー写真)

<https://dl.ndl.go.jp/pid/10756455/1/1>

国立国会図書館デジタルコレクションについては後でも触れますが、そのうち風景写真として興味深い内容がモージャー氏撮影写真資料です。

モージャー氏が、第二次世界大戦後、GHQ の文民スタッフ (civilian secretarial staff) として 1946 年 4 月から 1947 年 1 月まで日本に滞在した際、東京、名古屋、広島等の全国各地で撮影した街頭風景や建築物のカラー写真。(NDL リサーチナビ)

87 番写真の例 : 街並み風景 (名古屋駅等鳥瞰) (愛知県) /87

<https://dl.ndl.go.jp/pid/10756455/1/87>

[なごやコレクション 名古屋市史資料写真集]

https://e-library2.gprime.jp/lib_city_nagoya/da/result_s?fifq=%E3%82%AB%E3%83%86%E3%82%B4%E3%83%AA%3A%E5%90%8D%E5%8F%A4%E5%B1%8B%E5%B8%82%E5%8F%B2%E8%B3%87%E6%96%99%E5%86%99%E7%9C%9F%E9%9B%86

2 で包括的に紹介した「なごやコレクション」のうち、「大正昭和名古屋市史」編集時に収集された写真がアップされています。

タイトルや分類などで探したいもののあたりをつけることができます。

6 法令等を調べる

[日本法令索引]

日本のこれまでに制定、改正された法律、施行令などを包括的に検索することができます。ただし検索には少し法律の知識があると使いやすいでしょう。

<https://hourei.ndl.go.jp/#/>

トップページの検索窓にキーワードを入力します。

たとえば「都市計画法」と打ち込んでみます。

2番目が現行の都市計画法で、1番目は最初の都市計画法です。

2番目をクリックすると、次のようになります。

<https://hourei.ndl.go.jp/#/detail?lawId=0000059287&searchDiv=1¤t=2>

都市計画法の法律上の基本項目が示され、その下に沿革としてこれまでの改正履歴が示されます。

右の法令本文へのリンクで法律全文を表示することができます。

一番上の e-Gov 法令検索をクリックすると現行法律が、3番目の制定法律をクリックすると、最初に制定された時の法律が表示されます。

[官報を調べる]

法令をはじめ政府の多くの施策は官報登載という形式で公にされて効力を発揮します。

官報のうち直近 90 日間はすべての内容を、平成 15 年 7 月 15 日以降は法律・政令等の一部に限って無料で次の URL からインターネットで閲覧できます。

<https://kanpou.npb.go.jp/>

また、国立国会図書館では、1883 (M16)～1952 (S37) まで（年によっては一部）を検索できます。

<https://dl.ndl.go.jp/pid/2964146>

上記以外について調べようとする場合は、図書館で官報の冊子かまたはマイクロフィルムで閲覧することになります。あるいは図書館によっては全期間の官報を閲覧できるインターネット有償サービスを契約している場合があり、利用者のリクエストに応じて無償で閲覧、有償でプリントできる場合があります。

[名古屋市の公報を調べる]

国の情報は官報になりますが、地方自治体の情報は公報になります。

名古屋市の公報のうち、2004 (平成 16) 年度以降については、以下のサイトから閲

覧することができます。

<https://www.city.nagoya.jp/shisei/category/54-7-3-0-0-0-0-0-0.html>

2003(平成 15)年度以前については、鶴舞中央図書館などで冊子形態により閲覧できます。

[愛知県の公報を調べる]

同様に愛知県の公報のうち、1998(平成 10)年 9 月以降については、以下のサイトから閲覧することができます。

<http://www5.pref.aichi.jp/kofu/top/kenmei>

上記以前については、愛知県公文書館、愛知県図書館などで冊子形態により閲覧できます。

7 地名を調べる

名古屋に関する地名については、実に多くの書籍があります。

「張州府志」、「尾張誌」、「名古屋府城志」、「名古屋市史 地理編」などの古典的な地誌のほかに簡易な地名解説の本も多数あります。

参考となる基本的な資料としておすすめは次のようなものです。

名古屋市計画局「なごやの町名」

角川日本地名大辞典 23「愛知県」

平凡社「愛知県の地名」

また、住居表示や土地区画整理事業の施行に伴って、かつての町名が新しい町名に変更されています。名古屋市における住居表示については、名古屋市が発行している「町名新旧対照便覧」という便利な冊子があります。

8 国立国会図書館を活用しよう

[国立国会図書館デジタルコレクション]

<https://dl.ndl.go.jp/>

国立国会図書館は著作権の対象外となった実に多数の書籍類をデジタル化してアップロードしています。個人登録手続きをいとわなければ、図書館に出かけなくともディスプレイ上で閲覧可能で、部分的であれば印刷、保存が可能です。

たとえば検索窓に「尾張名所図会」と打ち込んでみると次のように示されます。

<https://dl.ndl.go.jp/search/searchResult?pageNum=0&pageSize=20&sortKey=SCORE&fullText=true&includeVolumeNum=true&keyword=%E5%B0%BE%E5%BC%B5%E5%90%8D%E6%89%80%E5%9B%B3%E4%BC%9A&displayMode=list&accessRestrictions=ooc&accessRestrictions=inlibrary&accessRestrictions=internet>

右のほうに「ログインなしで閲覧可能」とあるものについては、それをクリックするだけで閲覧できますし、少しテクニックが必要ですが、必要か所を PDF に（印刷）ダウンロードすることもできます。

「送信サービスで閲覧可能」とあるものについては、登録しなければ閲覧、印刷で

きません。

[国立国会図書館イメージバンク]

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/imagebank/theme>

ここには調べものとは別に、葛飾北斎、河鍋暁斎、川瀬巴水などの画像が見られて、目を楽しませてくれます。

興味がある箇所を選んで表示させればいいのですが、ここでは「吉田初三郎のパノラマ鳥観図」を見てみると次のとおりです。

<https://ndlsearch.ndl.go.jp/imagebank/theme/hatsusaburochokanzu>

9 公文書館は面白い

[国立公文書館デジタルアーカイブ]

<https://www.digital.archives.go.jp/>

都市計画は、1969(昭和 44)年に都市計画法が全面改正施行されるまでは、建前上すべて所管大臣が内閣総理大臣の認可を受けて決定するという仰々しい手続きでした。名古屋市の都市計画もすべて国の公文書で保存されています。

国立公文書館デジタルアーカイブを開いて、「名古屋都市計画」と打ち込んでみると、395件ヒットします。知りたい時期を入力して絞り込み検索すればいいのですが、ここでは55番目の「名古屋都市計画風致地区決定ノ件」を閲覧してみると次のとおりです。

<https://www.digital.archives.go.jp/DAS/meta/listPhoto?LANG=default&BID=F0000000000011182&ID=M0000000000000293596&TYPE=>

[愛知県公文書館 所蔵資料検索システム]

https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G0000606oudan

こちらは国立公文書館のようにインターネットで資料の画像を見ることはできないようです。検索によって資料の所在を調べ、出向いて閲覧することになります。

明治時代の地籍図など珍しい資料、地図があります。

[名古屋市市政資料館（名古屋市公文書館）]

件名 https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G000065402kenmei

簿冊 https://www.i-repository.net/il/meta_pub/G000065401bosatsu

こちらも同様で、出向いてリクエストして閲覧する仕組みです。

名古屋市内で施行された組合施行の耕地整理事業、土地区画整理事業についての文書、地図などを調べるには、名古屋都市センターの他にはこちらが便利です。

10 もちろん名古屋都市センターはとても有益

名古屋都市センターのライブラリーは、名古屋が誇るべき特色ある施設です。

まちづくり、都市計画に関する書籍、雑誌、地図、パンフレットなどが豊富にそろえられています。

司書、調査研究スタッフも優秀な人材が集まっています。調べたいこと、疑問に思ったこと、インターネットでもわからなかったことなど、とにかく足を運んでもらえば解決することが多いと思います。

11 ちょっとニッチなツボ

[元号と西暦]

<https://tabikaz.com/gengou-seireki-aduti-gendai>

文献資料やウェブ上で西暦と元号が併記されていない場合、調べたくなることがあります。そうしたときに参照すると便利なサイトです。

[単位換算]

<https://www.au-techno.com/tan-i.htm>

昔の文献で尺貫法によって記述されていたり、外国事例でヤードポンド法によって記述されていたりする時に、メートル法に換算する必要があったりします。その時に重宝するサイトです。

[昔の市町村 市制町村制施行時の情報]

https://uub.jp/upd/s_aichi.html

現在の基礎自治体である市町村は、江戸期の町村を引き継ぎながら「市制町村制」が1888(明治21)年に制定されて始まったといっていでしょう(施行は翌年)。その後、3度の大合併を経て今日に至っています。現在の行政区域が、かつてどのような市町村で構成されていたのかを知ると、過去あるいは現在の町名などに伝わっていることなどがわかります。

[名古屋市の合併経緯 名古屋市市区别面積一覧]

<https://www.city.nagoya.jp/shicho/page/0000001777.html>

名古屋市はかつての名古屋城下町を核として、その後熱田町はじめ周辺市町村を合併して今日に至っています。その経緯がわかります。

下のURLをクリックすると、より詳細なエクセル表がダウンロードされます。

<https://www.city.nagoya.jp/somu/cmsfiles/contents/0000051/51443/area-nagoya.xlsx>

12 アナログも大事

これまで散々インターネットなどデジタル利用を主に紹介してきましたが、アナログ的な情報収集が大事なことはもちろんです。

- ・ 図書館を活用しよう

- ・ 司書の人に相談してみよう
- ・ レファレンスサービスを活用しよう

2番目と3番目は最初に収れんすることかもしれません。名古屋都市センターのライブラリーは強力ですが、愛知県図書館や鶴舞中央図書館も幅広く有益です。

司書の人に質問して、レファレンスサービスを依頼することも大事ですが、もし図書館に出向くことがむづかしい場合は、メールでのレファレンスサービスも受け付けています。

また、これまでになされたレファレンスサービスの回答が集約されてデータベース化されている事例もあります。

<https://crd.ndl.go.jp/reference/>

それから名古屋ローカル出版社の風媒社は、名古屋をはじめ東海地方をテーマとした本を多数出版しています。その中には貴重な情報とともに地図、写真なども多く見られます。参考になる箇所も多いことでしょう。

風媒社刊の「名古屋・東海を読む」シリーズには次のような書目があります。

<http://www.fubai sha.com/search.cgi?mode=genre&genre=04>

【最後だけどすごく大事！ Last but not Least】

現場、現場、現場！

紙やディスプレイ上の知識だけではなく、現場を踏むことの重要性